令和7年度 北海道地区

定員 200 名　　参加無料　申込先着順

橋梁技術発表会 及び 講演会

ライブ配信予定!!

開　催　概　要

日時	令和7年10月24日(金) 14：00～17：10
会場	かでる2・7　1Fかでるアスビックホール 札幌市中央区北2条西7丁目
申込	https://www.jasbc.or.jp/ ※申込はWebサイトのみです。
申込受付期間	9月24日～10月14日
継続教育	CPD対象
資料	会場では配布いたしません。必要に応じて Webサイトより出力し持参願います。 10月17日掲載予定

≪開催日一覧≫

地区	開催日	申込締切
東京地区	10/03(金)	09/23(火)
大阪地区	10/17(金)	10/07(火)
北海道地区	10/24(金)	10/14(火)
中部地区	11/07(金)	10/28(火)
九州地区	11/21(金)	11/11(火)
東北地区	12/04(木)	11/25(火)

(6地区開催ですが発表テーマは異なります)

開会	14:00～14:05	開会の辞	北海道土木技術会　鋼道路橋研究委員会 委員長　宮森 保紀
第一部 技術発表	14:05～14:40	技術発表（1） 大型試験桁を用いた金属溶射の耐久性調査 ～沖縄地区での21 年目調査報告～	製作小委員会
	14:40～15:15	技術発表（2） 高速道路橋を2週間の通行止めで架け替え ～首都高　高速大師橋　約300m区間のリニューアル工事～	架設小委員会①
	15:15～15:20	休憩	
	15:20～15:55	技術発表（3） バングラデシュ・ジャムナ鉄道橋　上部工工事報告 ～ 大河ジャムナ川に架かるアジア最大級の連続トラス鉄道橋 ～	海外事業委員会②
	15:55～16:05	休憩	
第二部 特別講演	16:05～17:05	（調整中）	（調整中）
閉会	17:05～17:10	閉会の辞	橋梁技術発表会　実行小委員会 委員長　本田 政樹

発　表　概　要

鋼構造物における維持管理コスト低減と長寿命化を目的として、様々な防食方法が検討されているが、金属溶射も有効な手段のひとつであり、鋼道路橋塗装・防食便覧（平成17 年12 月 社団法人日本道路協会）に代表的な防食技術として掲載されたことにより、施工事例も増加しています。しかし、鋼橋の防食方法として金属溶射が本格的に採用されるようになってからまだ日が浅く、金属溶射の耐久性に関するデータが少ないこと、試験板を用いた促進試験が主であることが実状です。このため、（一社）日本橋梁建設協会では、（国研）土木研究所との共同で、腐食環境の厳しい沖縄地区において金属溶射の耐久性検証を目的として、大型試験桁を用いた暴露試験を2002年6月から開始しました。
本報告は、暴露21 年目までの調査結果について報告します。

多摩川にかかる首都高速1号線（高速大師橋）は、1968年11月の開通から50年以上が経過し、1日約8万台の自動車交通による過酷な使用状況などから、橋梁全体に1200か所以上の疲労き裂が発生していました。構造物の長期的な安全性を確保する観点から疲労損傷が発生しにくく、長期の耐久性と維持管理性を備えた構造の橋梁へ更新（造り替え）を行うこととなりました。本事業では、交通への影響のほか、一級河川・多摩川や近隣住居に対する影響低減が求められたため、仮設の迂回路を設けず、既設橋の下流側に新設橋を架設し、壁高欄・基層舗装を施工した後、既設橋と新設橋を上流側にスライドさせる一括横取り工法を採用し、約2週間の通行止め期間で重さ約4,500ｔ（附属物を含む）、長さ292mの橋梁を一挙に架け替え、その後、表層舗装・区画線等を施工し予定通り供用を開始しました。本発表では新設橋の架設、一括横取り、交通解放まで一連の作業について報告します。

ジャムナ鉄道橋建設工事プロジェクトは、バングラデシュ人民共和国の経済成長に伴う将来の鉄道輸送需要への対応等を目的にJICA有償資金援助により実施されたプロジェクトです。本プロジェクトは、橋梁上・下部工、駅舎、盛土工、護岸工事等の多工種が含まれ、プロジェクト総延長12.5kmはジャムナ川中央部を境に東西2工区に分割発注されました。
その中で主橋梁に位置づけられるジャムナ鉄道橋は、国土中央部を南北に流れる大河ジャムナ川の渡河部に計画された延長4.8km、鋼重約41,000トンの連続トラス鉄道橋で、東工区2.55km、西工区2.25kmを担当しました。工事期間中には、新型コロナパンデミック、ミャンマー政変、ロシアのウクライナ侵攻、バングラデシュ政変等の想定外イベントが工事進行に大きな影響を及ぼしましたが、2025年3月に上下線を開通することが出来ました。
本発表では、ジャムナ鉄道橋の上部工工事の製作、輸送、現地架設に関する一連の活動を報告します。

主催：　北海道土木技術会　鋼道路橋研究委員会
http://www.koudourokyo.net/

一般社団法人 日本橋梁建設協会 Japan Bridge Association Inc.
https://www.jasbc.or.jp/